

光明寺だより

第79号

浄土真宗本願寺派

光明寺

T793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583



心に残る詩

人生銀行

神戸市 坂本ユミ子 55

人生銀行に
「思い出」を預けた

悲しかったこと
辛かったことは
引き出し不可能な
永久預金へ
楽しかったこと
嬉しかったことは
出し入れ自由な
普通預金へ

預金は増えつづけ
我が人生も続いて行く

産経新聞「朝の詩」より



秋の彼岸会法座

9月29日(土)

おつとめ 1時30分

講演 2時

【講師】 本願寺中央相談員

すえひら

季平博昭先生



一口法話



”スパリゾートハワイアンズ”の奇跡

とある雑誌社の記者が旅先で遭遇した東日本大震災の体験談を自社の雑誌とウェブサイトに掲載したところ大変大きな反響を呼びました。

「スパリゾートハワイアンズの奇跡」と題したその手記には次のような心打つ話が記されていました。

東京で暮らす記者は久しぶりの有給休暇を利用して昨年3月11日、奥さんと2歳10ヶ月になる息子さんを連れて家族旅行に出かけました。

訪れたのは福島県いわき市にある総合レジャーセンター「スパリゾートハワイアンズ」でした。ここは’07年、日本アカデミー賞で最優秀作品賞・監督賞を受賞した映画『フラガール』の舞台となったところだ。

記者一行は、ホテルに到着すると早速水着に着替え、春まだ遠い東北の地で一

足早い南国気分を味わっていたその時、あの大地震が起きたのです。

旅先の知らない土地、さらには水着のままの避難という、最悪の状況にあったけれども、ここで被災したことは不幸中の幸いだったと、記者は述懐しています。

そこはガス、水道、電気といった、いわゆるライフラインがすべて生きており、テレビなどで報道されたような、寒さに震えたり、暗闇に怯えたりすることもなく、しかも数日間の食料も備蓄されていたのです。

その日の夜、客たちは大会議室やロビー、廊下で雑魚寝となりました。

眠れぬ夜が明けた翌朝、記者は一人の従業員に尋ねました。

「このホテルのほかは、どんな状況ですか？」

従業員は顔を強張らせて、静かに答えました。

「はっきり申しまして、このホテル以外は全滅です」

「そうか、俺たちはラッキーだったんだな」と思った数秒後、記者は気付くのです。

「……じゃあ、彼らの家族は一体どうなんだ？ 親戚は？ 友人や恋人は？」

彼らもまた”被災者”であることに思いを馳せていなかった自分を恥じました。

「あの人たちの家族が全員無事というのは考えにくい。連絡が取れない、友人、知人が山ほどいるはずだ。そして、何よりも自分自身が一秒でも早く、帰りたい場所があるだろうに……」

しかし、従業員の誰もがそんなことを態度にはまったく出さず、自らの職務をまっとうしてくれていたのです。

震災から三日目の朝、6時の起床のアナウンスが流れ、朝食が一段落したところで、支配人が拡声器を片手に、こう話したのです。

「本日、皆さんを東京駅までお送りできることがわかりました」

満場の拍手が沸き起こりました。しかし記者は思いました。

「大地震の後も大きな余震が続いているのに、たくさんのお客様を乗せてバスを走らせても本当に大丈夫なのか。道路は寸断されていないのか」

そんな不安を抱く記者の耳に信じられない言葉が聞こえたのです。

「昨日、弊社の従業員を實際に、東京駅に向かわせたところ”走行可能”という判断を下しました」

さつきよりも大きな拍手が会場を包みま



震災の翌日、情報もまだほとんどなく、震度4〜5クラスの大いなる余震が続く中「お客様」を安全に東京に送り届けるために命がけで試行運転をした従業員がいたのです。

会場を包んだ拍手はいつまでもいつまでも鳴り止みませんでした。

その日、被災者に乗せたバスは、12時間を超える長旅を経て無事、東京駅に到着しました。

記者はこの体験を通して、

「絶望の淵にある人を、真に救うのは情報でも言葉でも、ましてや法律やルールでもない。行為だ。何をすべきかを論じているだけでは、誰一人救えないのだ」と、語っています。

そうして、熱い思いを込めて、

「いつか、スパリゾートハワイアンズが営業を再開したら、毎年家族を連れて、遊びに行こう。そして、その都度、息子に『このホテルで働いている人は、みんなお前の命の恩人なんだぞ』と話してやろう」という言葉で手記を結んでいます。

この手記で述べている「絶望の淵にある者を救うのは行為だ」という記者の言葉には千金の重みがあります。

ああでもない、こうでもないという理屈を

述べるよりもまず行動です。特に危機的状況下では、なおさらです。

そうして大事なことは、その行動を駆り立てているのは「同悲同苦」の心だということなのです。

同悲同苦とは、相手の悲しみを我が悲しみとし、相手の苦しみを我が苦しみとする心です。

仏教では、そのような心を持った人を菩薩と言います。

記者たちにとってスパリゾートハワイアンズの従業員の皆さんは、まさに菩薩さまだったのです。

また今回、支援活動に携わってこられた^{みのわのり}義輪頭量・東大教授は次のように述べておられます。

―悲惨な事態に直面した時に、人間は理屈ではなく直感的に動いていることを実感した。それは、言い換えれば他者の悲しみ、苦しみをわがことのように感じ動いているということが出来るだろう。そこには小難しい理論や教理ではなく、他者への共感のまなざしが存在する。言ってみれば、慈悲の念に突き動かされると位置づけられていいのではないかと―

つまり、他者への共感が支援という行動を生み出しているというのです。

他者への共感とは言ってもなく、「同悲

同苦の心」のことであります。

このことを思えば、あの日あの時、被災地には数え切れないほどの菩薩さまがいらっしゃったのです。

もとより、お念仏の教えに生きる者は「我以外皆我菩薩」であります。

テレフォン法話
0897-53-4585



「新盆合同追悼法要」修行

さる8月13日・14日、「平成24年度新盆合同追悼法要」がつとまりました。

初めて迎えるお盆はご遺族にとりまして、ひとしお寂しさの募る行事であります。

先立って逝ったあの人は、すでにお浄土で仏さまになられ、いつでもどこでも私に寄り添い、私たちを護り導いて下さっています。

お盆は、亡き人を偲びつつ、この私の「いのち」の行く末を考える尊い「ご縁」にしていくことが、何よりも大事なことです。

今年は新僧侶（後藤英樹師）も加わり、僧侶4名でおつとめをいたしました。



【余聞①】

ニューヨーク州立大学病院の壁に書き残された詩

大きなことを成し遂げるために
力を与えてほしいと神に求めたのに
謙虚を学ぶようにと弱さを授かった。

より偉大なことができるようにと健康を求めたのに
より良きことができるようにと病弱を与えられた。

幸せになろうとして富を求めたのに
賢明であるようにと貧困を授かった。

世の人々の称賛を得ようとして成功を求めたのに
得意にならないようにと失敗を授かった。

人生を楽しもうとたくさんものを求めたのに
むしろ人生を味わうようにとシンプルな生活を与えられた。

求めたものは一つとして与えられなかったが
願いは全て聞き届けられた。

神の意にそわぬ者であるにも拘わらず全て叶えられた。
私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ。

― 作者不詳 ―





光明寺旧本堂の「鬼瓦」について

—三木秋男（元・史談会会長）氏の調査報告文より抜粋—

光明寺旧本堂の鬼瓦には次のようなへら書き（瓦師によって刻された文字）がある。

瓦師 泉州日根郡 谷川七兵衛
享保15年（1730）庚戌 11月吉日

「泉州日根郡谷川」は現在の大阪府泉南郡岬町多奈川字谷川である。この地域は昔から瓦の生産地として名高く、特に谷川瓦が生産量も多く有名であった。ちなみに和歌山城の瓦もこれであり、我が西条地方も本家紀州に習い陣屋や仏閣に特に求めて使用されたようである。しかし近年、「淡路島瓦」にその地位を奪われ、現在窯元の火は消えている。

「谷川七兵衛」は生産地「谷川」の七兵衛という意味である。七兵衛は由緒ある名前のようで、この名前の「へら書き」は和歌山県下に数多く残っている。

「享保15年庚戌12月吉日」の刻字があるのはまことに貴重なことである。谷川瓦としても古い部類に属し、西条陣屋や妙昌寺の瓦よりも60年近く古い瓦である。おそらく当地方では最古の鬼瓦と見られ、寺の歴史を語る資料としてまことに貴重な一対の鬼瓦である。

★★三木先生の調査研究によって貴重な歴史的事実が明らかになった光明寺鬼瓦は、現在鐘楼堂の西側に台座を据え、説明文を掲げて設置しています。「親鸞聖人750回大遠忌」記念事業の一環として実施しました。

【余聞②】

思わず笑ってしまった話



武田哲矢さんがフォーークグループ「海援隊」を結成して、ある老人ホームで慰問コンサートを行ったときのことです。後のほうは比較的元気なお年寄りでしたが、最前列には4台のベッドが置かれ、その中に寝たきりのお年寄りがいたので、4人とも目を閉じて動かない。まるで四体の遺体の前で歌っているような感じで、なんともやりづらかったそうです。

2、3曲歌った後、ベッドに寝ていた一人のお年寄りの目が開いたのです。首を90度に起こし、武田さんのほうを向いて、一言、かぼそい声でこう言ったということです。

「ちよっと静かにしてください」

「日本一心を揺るがす新聞の社説」より

趣味の広場



俳句を楽しむ(五十八)

森本隆を

この時期、毎年同じことを言っている様な気がしますが、それでも「今年の夏は例年より暑さが厳しかったですね」と誰彼なく言い合っていますね。九月に入って朝夕わずかに涼を感じる日が続いていますが、昼間の残暑にはまだ油断は出来ません。しかし、田に稲は実り、遠山の稜線ははつきり見え、時折吹き抜ける風は秋近しの感じがします。そんな、いよいよ秋の好季節到来か、という今回は、我が郷土の名所をその土地に住む俳人が詠んだ句を拾って鑑賞してみましよう。

まず愛媛といえは松山、市の中央部の勝山頂上の松山城は十五万石のお城下の何処からでも見え、城山道は市民の格好のウォーキングコースとしても親しまれています。

新涼や真正面より城仰ぎ

渡部 元子

蛸やむかし火急の登城口

川越スミ子

その城山から東へ道後温泉を経て更に東へ行くと四国八十八ヶ所第五十一番札所である石手寺があります。

秋うららなり山門の大草履 今村 年を

四季を通じて多勢の遍路で賑わい、その山門に飾り付けられた大ワラジは遍路の口を通じて有名です。真夏を避けて秋の札所巡りを思い立ったお遍路さんの爽やかな旅を見守っているかのようです。さて、札所寺ではないのですが、我が西条の保国寺と隣の新居浜の瑞応寺もよく俳句に詠まれています。まず、西条市中野の禅寺保国寺は開山が仙通禅師、足利、細川両氏の帰依で栄えた歴史を持っていますが、何といても足利義満が宗阿弥に命じて作らせた庭園が有名です。

黒仏までは届かず紅葉の火 村上 愛子

石庭の石みな仏木の実落つ 山本 義久

句中の黒仏とは保国寺開山仙通禅師座像のことで「黒仏さん」と親しんで呼ばれています。紅葉の色の鮮かさを引き立てています。新居浜南郊山根にある瑞応寺図は曹洞宗禅門の修行道場であり、今も多くの僧侶が修行に励んでいます。真冬に家々の門口を托鉢して回る寒行托鉢は新居浜の冬の風物詩です。

警策のひびき秋冷俄なり 池田千佳子

座禅中、情気や眠気をさませ心のゆるみを戒めるために打つ警策の空気を裂くような音に、にわかに緊張感が座禅堂内にみなぎる様子を、「秋冷」という語でうまくいい止めています。さて、いよいよ最後は石鎚山です。

石鎚山は西日本最高峰であり、古くから日本七高山(伊予石鎚山、大和釈迦嶽、同大峯、伯耆大山、加賀白山、越中立山、駿河富士山をい

う)の二に数えられ、神秘の山として、修験道の道場として崇敬され栄え、登山信仰史上でも全国に聞えた霊山である、と昭和四十一年に発行された『西条市誌』に述べられています。毎年七月一日のお山開きには全国から石鎚山信仰の信者さんが訪れ、日頃は静かな西条駅もこの時ばかりは白衣で大混雑です。

秋の雲大石鎚に影おとす 黒河 孝夫

八月のくちばし黒き鴉かな 川又美和子

一歩づつ空に近づく濃竜胆 松浦 虎雄

背の鈴に励まされ行く秋の山 野中 芳子

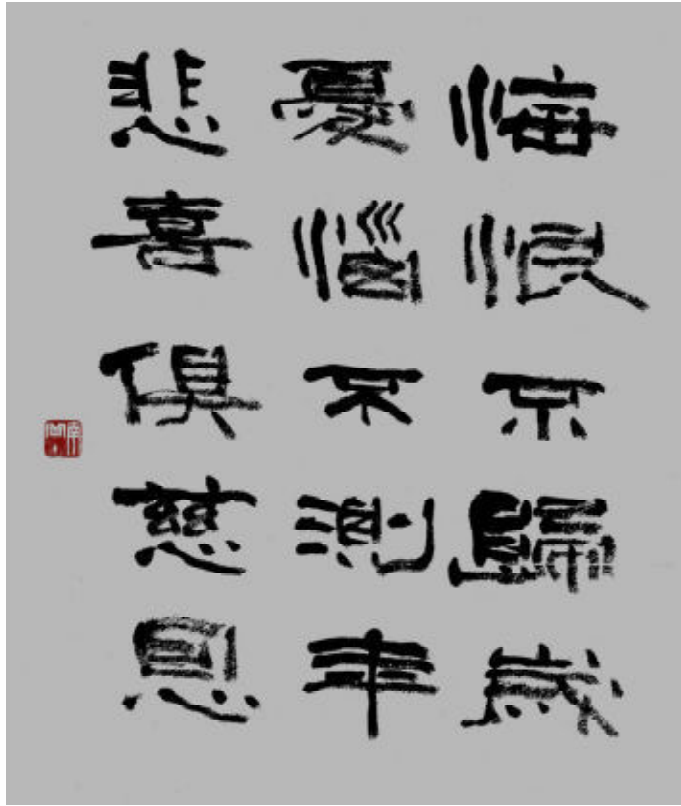
西条に生まれたら一度は登らないかん、と言われ市民も親しむ石鎚のお山を、登山口から登山道、道中に見る山の花、そして青い秋空まで、色々な角度から石鎚を詠んだ四句です。今回は、平成十一年に東京四季出版から発行された『俳枕(はいまくら)』より、愛媛の項に掲載されたもののうち、秋の句を例句として引用させていただきます。



住職書作品



字句―悔恨すれども歳帰らず
憂悩すれども年測らず
悲喜ともに慈恩なり



―意味―

どんなに悔やんでも過ぎ去った年月はもう帰ってこない。
どんなに悩んでもこれから先はどのようなになるのか測り知れない。
しかしよくよく考えてみれば、人生における悲しい出来事も嬉しい出来事もみなすべて如来様のお慈悲の中の出来事でありました。
この世に無駄なものは何一つありません。すべて頂いていくばかりです。

BOOK 本

元気なうちの
辞世の句 300選



発行所 忠経出版
監修者 金子兜太
定価 1100円+税

本書は題名の示す通り、平時において詠まれた現代人の辞世の句です。

応募総数3623句より選出された秀句300句、特選句1句、優秀句20句が掲載されています。それぞれの句には作者のコメントが載せられており、辞世の句ならではの死生観といったものが句を通して窥えます。

特選句は次の句です。

風花はまぶたを閉じるまでの花

吉田透思朗(七十六)

以下は個人的に印象に残った句です。

芋虫を二匹助けたことくらい

敵七人大方逝きて秋暮るる

まあいいかせめて桜の咲く頃に

報恩講

11月30日(金)

おつとめ 午後1時

おはなし 午後2時

★法座皆勤賞の授与があります

【講師】 当山住職(予定)

「光明寺だより」を「ご家族の
皆さんでお読み下さい

次回発行予定ー12月上旬



言葉のプレゼント

肉を使わないという「制限」が
精進料理を昇華させていった
ように、「制限」が工夫を生み
出すのです



光明寺のホームページ

[http://www.koumyouji.com./](http://www.koumyouji.com/)

南岳山光明寺

検索



アクセス数が267000件を越しました。
(9月15日現在)

★副住職(釋一心)が、11月18日(日)結婚式を挙げることになりました。いずれ本紙で紹介したいと思っています。まことにありがたいご縁を頂いたことと喜んでいきます。お代替わりの体制が次第に整いつつあります。

★8月13日・14日「新盆合同追悼法要」がとまりました。多くの参拝客でにぎわいました。

(*関連記事5ページ)

